

第二回 阿波しらさぎ文学賞 新たな文学価値を創造

徳島発、全国公募の掌編小説文学賞として注目されている、阿波しらさぎ文学賞（主催：徳島文学協会・徳島新聞社）が今年も開催された。今回は第一回を上回る四二六作品が集まった。

大賞には佐川恭一さんの「踊る阿呆」、徳島新聞賞に桐本千春さんの「胸をつらぬく」、徳島文学協会賞には宮月中さんの「いらっしやいマンション」が選ばれた。

作品は八月下旬に徳島新聞に掲載され、来年発行の『徳島文学』第三号にも転載される予定だ。

また九月八日には最終選考委員長吉村萬壱さんに加え、角田光代さん、玄月さんをお招きし授賞式と文学トークが開催された。多くの方にご来場いただき受賞者たちとのトークが盛り上がった。

吉村萬壱さんによると、第二回は全体のレベルがアップし文学賞としての価値も高まったとのことだ。初代受賞者の大滝瓶太さんのその後の活躍もあり、今回は全国から注目が集まった。昨年と比較して県外からの応募作が大幅に増えたことからそれが裏付けられる。

今回大賞を受賞した佐川恭一さんもアマチュアの文学業界ではよく知られた若手の注目株だ。広く知られることでレベルが上昇し、掌編小説の一地方文学賞である阿波しらさぎ文学賞が一気に新人作家への登竜門的存在になってきた。このような流れはこれまでの文学業界においてなかった動きである。徳島が文学で全国から注目される、そんな驚くような事態が起こり始めている。徳島文学協会の会員からも多くの応募があった。しかし一次選考の二六作品に残ったのは二作品にとどまった。会員といえども選考が有利に働くことなどないのは当然だが、日頃から文学に親しんでいる協会メンバーには、もう一段の奮起を期待したい。阿波しらさぎ文学賞の受賞は優れた文学作品の書き手であることの紛れもない証になる。

先般、徳島新聞社と徳島文学協会の間で協議が行われ、来年第三回が開催されることとなった。阿波しらさぎ文学賞は徳島文学協会にとって、活動の核となる重要な取り組みである。ぜひ多くの会員からの応募をお待ちしている。

（佐々木義登）



上：文学トークの様子
左：受賞者を伝える徳島新聞朝刊一面

第一回 民雄忌 北條民雄を偲ぶ会

開催のお知らせ

多くの著名な作家が、忌日に文学活動を顕彰される中、徳島県出身の作家、北條民雄については後世に大きな影響を残す活躍をしながら、その業績を顕彰する活動が十分ではありませんでした。

この度、徳島文学協会と阿南市が主催団体となり、故郷である阿南市において北條民雄の文学業績を顕彰する、第一回「民雄忌」を開催することとしました。

本イベントには高山文彦氏、若松英輔氏、

吉村萬吉氏など北條を評価する著名な文学者も参加されます。

徳島文学協会の会員の皆さんには、ご多忙のところ恐縮ですが、この歴史的なイベントにぜひともご参加いただけますようお願いいたします。

参加希望の方は以下の要領にて電話か電子メールにて徳島文学協会事務局にお申し込みください。

◆主催

徳島文学協会、阿南市

◆日時

令和元年十二月七日（土）

午後六時開会（受付午後五時半より）

◆場所

ロイヤルガーデンホテル（阿南市富岡町）

◆参加費

六千円（当日受付にてお支払い下さい）

◆参加者

本会の開催趣旨に賛同される方

◆申込方法

徳島文学協会まで電話又はメールにてお申し込みください。

電話 〇八〇・六二八四・〇二九六

メール society@t-bungaku.com

※住所、氏名、連絡先（電話番号）を明記

してください。

◆申込期間

十一月二十九日まで

（ただし、定員に達し次第締め切り）

◆主な内容

■トークセッション

「北條民雄 人と文学」

ゲスト：高山文彦（評論家・作家）

若松英輔（批評家・詩人）

吉村萬吉（作家）

■献杯・懇親

会員エッセイ

「カクヲタノシムズヨ」に参加された福岡啓子さんのエッセイです。

みんなの力で

完成した一冊

福岡啓子

この本の第一巻が刊行されました。懸命に取り組んで頂いた理事さん始め、援助された会員の方々、ありがとうございました。おめでとうございます。

届いた本を目にした瞬間、何と華やかで明るい表紙だろうと思いました。橋本シャーン氏に会ったという藤代さん、小説とは違う、別の一面を垣間見せてもらいました。この本は小ぶりですが、バッグに入れ持ち運びが容易で、どこでも読めるという優れものです。

俳句や詩、エッセイや小説など力作が収められています。私は創刊号から参加させてもらい、推敲などに大変お世話になりました。拙作を読んだ方から「楽しかったよ」と、励ましの言葉をかけてもらいました。対談や受賞作品の裏話、本の紹介などバラエティーに富み、知っている執筆者で親近感も手

伝い、なかなか読み応えのある面白い一冊だと感じました。

「筆談インタビュー」とは何かと疑問を持って読み始めました。予め質問紙を渡しておき、その問いを文章化したものでした。文体を変え小説を書き分けるというのは、私にとっては夢みたいなことだとびっくりしました。新しい世界に常に挑戦する師の姿勢にはいつも驚かされます。

また、林芙美子文学賞佳作の「裏庭」の裏話。著名な選者方の作品選びの際のこだわりや、「モノ」を取り入れた作品が多かったこと、割愛された部分の掲載など興味深かったです。「書く以上に読まないといけない」と選者が声を大にしたのは、本当だと思えます。ホーキンス氏も、「本を読むことは、著者と話すのと同じことだ」と述べています。今までの少ない読書量を恥じている私です。

エッセイを募集します

文学に関することなどを題材にした八百字以内の原稿を、ワード形式で事務局へお送りください。（送信時には件名に『とと掲載用』と入れてください）
「とと」は春、夏、秋の年三回発行ですが、一回につき掲載できるエッセイは1〜4作品です。先着順で掲載できない場合は次号に回します。

みんなの文芸誌 カクヲタノシム vol.1 創刊!

書くことは楽しいことばかりではありません。苦しい、前に進めない、そんな風に感じたら、ちよつと立ち止まって周りの景色を楽しむのもいいかもしれません。『カクヲタノシム』は創作の心を自由に羽ばたかせる、みんなの文芸誌です。

徳島文学協会主催イベント「小説広場」みんなで合評会」が始まって一年以上が経ちます。作品を発表して下さる方はもちろん、小説を書きたいけど書いた事がない、どんなふうに行けばいいのかわかっているといった皆さんが集い、学生サークルのように楽しく、時には厳しく時には熱く、小説の書き方について議論しています。そしてもう一つ、パソコンを使って創作する上での悩みを解決する「パソコン倶楽部」。この二つの講座から『みんなの文芸誌・カクヲタノシム』は生まれました。

徳島文学協会の同人誌と言えば、二〇一八年に創刊した『徳島文学』が在りますが、『カクヲタノシム』は全く違うコンセプト。みんなの力を結集し、みんなで制作する、みんなの文芸誌です。原稿もフォーマットを決め、それに沿ったデータで入稿。一度でも協会主催の講座や文学イベントに参加経験のある方なら非会員様でも、ご応募頂けます。誰でも参加できるからといって決して稚拙で粗雑なモノにしたくない! そんな思いで編



「小説広場」参加者の皆様

集委員会メンバーが校閲はもちろん、皆さんの原稿を何度も推敲し、全力でサポートさせて頂きます。

※小説部門でのご応募は編集委員会がアドバイザーを務める「小説広場」で、作品を発表して頂くことをお奨めしています。「小説広場」の開催日は4Pをご覧ください。

カクヲタノシム vol.2
二〇二〇年秋、発刊予定
《みんなの原稿》

大募集

掲載原稿を募集しています。ジャンル不問。詳しくはメールまたは電話で協会事務局までお問い合わせ下さい。掲載参加料、原稿フォーマットなどを明記した応募要項をお送りします。

■申込締切 二〇二〇年六月末
■入稿締切 二〇二〇年七月末

※参加者全員に一冊無料配布
創刊号をご希望の方は六〇〇円＋税(郵送の場合は送料一八〇円が必要)でお譲りしています。数に限りがありますのでお早めにお問い合わせ下さい。



カクヲタノシム vol.1

『徳島文学 Volume 3』

二〇二〇年春、発行。

徳島文学協会発行の文芸誌『徳島文学 Volume 3』の原稿を募集します。

徳島文学協会では、年一回文芸雑誌を発行しています。芥川賞作家やプロの文学者を筆者に招き、地方の文芸誌としては類を見ない商業雑誌に匹敵するクオリティの雑誌を目指します。会員の皆さんの優秀作品をプロの作家と同じ誌面に無料で掲載いたします。皆さまの傑作をお待ちしています。会員の方全員に、最新号を進呈します。

◆応募資格

徳島文学協会会員限定

◆応募作品

小説・評論・随筆・詩・短歌・俳句など広義の文学作品、および書評。未発表作品に限る。

◆詳細はホームページにて

<https://www.t-bungaku.com/introduction/bungaku03.pdf>



「とく」古代エジプト文明の知恵の神「トト」に由来する。

文学イベント案内

「文芸批評会」

複数の文学賞受賞者を含む10名以上の徳島文学協会主要メンバーを集め、皆さんの作品を組上に載せて批評会をさせていただきます。事前に作品を読ませていただき、当日メンバーひとりひとりから、熱のこもったアドバイスを受けることができます。直接、質疑応答にもお応えいたします。

- 開催日 ①2020年2月1日(土)
②2020年3月7日(土)
毎回 19時～20時半
- 場所 徳島県立文学書道館
- 参加費 会員のみ対象3万円(年2回まで)
- 締切 毎月20日まで ※先着順
- 主な参加者 佐々木義登、菊野啓、久保訓子、藤代淑子、阿部あみ、高田友季子他
10名程度(参加メンバーは変更する場合があります)
- お申し込み先メールアドレス
society@t-bungaku.com

「パソコン倶楽部」

～みんなで文芸冊子をつくろう～

パソコンで文芸作品を創作するための知識や技術を講習します。目標はパソコンで作ったデータをもとに、みなさんのオリジナル文芸冊子を作ること！ワードでの基本的な文字入力、便利な編集方法等をお伝えします。個々の質疑応答を中心に進めたいと思いますので、ご質問等がございましたら、お申込みの際に事務局までお伝えください。

- 開催日 ①2019年12月1日(日)
②2020年2月24日(月・振替休)
毎回 14時～16時
- 場所 徳島県立文学書道館
- 講師 パソコン倶楽部部長 魚井美佐
- 参加費 会員1,000円、非会員1,500円、学生500円
- 定員 15人
- ※ご自身でお使いのノートパソコンをご持参ください。
用意できない場合はお申込みの際にご相談ください。

朗読会「ヨムヲタノシム」

朗読を楽しみませんか？声に出して読む音読は、黙読とは違った読書体験ができます。講座では、朗読の基本テクニックを紹介した後、自分の好きな本(自作を含む)、を順に読んでいきます。時間があれば一つの本を皆で読みましょう。聴くだけの参加も大歓迎。

- 開催日 2020年2月19日(水) 10時～12時
- 場所 徳島県立文学書道館
- アドバイザー フリーアナウンサー・なかむらあゆみ
- 参加費 会員1,000円、非会員1,500円、学生500円
- 定員 10人
- 朗読作品 みんなの文芸誌『カクヲタノシム』から
自作・他作品。または詩、俳句、小説などジャンル問わず、ご自身が朗読したい作品をご用意ください。
- ※事前に音読したい作品をお知らせください。
(一人5分以内)

「みんなで楽しむ俳句鑑賞講座」

当日お渡しするプリントの中からみなさんの好きな句を選び、得点の高い俳句からみなさんと一緒に鑑賞していきます。自作の俳句は要りません。鑑賞を通して俳句の魅力に気づくことができる講座です。

- 開催日 ①2020年1月13日(月・祝)
②2020年3月8日(日)
毎回 14時～16時
- 場所 ①とくぎんトモニプラザ 6階会議室5
②徳島県立文学書道館
- 講師 俳人・原英(はらえい)
- 参加費 会員1,000円、非会員1,500円、学生500円
- 定員 15人

「小説広場」～みんなで合評会～

あなたの書いた小説を合評会に出してみませんか。作者であるあなたにも、見えなかったものが見えてくるはず。作品を提出して下さる方、作品はなくても合評会に参加して下さる方を募集しています。

- 開催日 ①2020年1月22日(水)
②2020年3月18日(水)
毎回 10時～12時
- 場所 徳島県立文学書道館
- アドバイザー 藤代淑子、久保訓子、阿部あみ
- 参加費 会員1,000円、非会員1,500円、学生500円
- 定員 15人
- ※合評作品は、随時受付しています。
詳しくは事務局までお問い合わせください。

吉村萬壺氏を囲んで 新年会のお知らせ

新年会を開催いたします。ご参加いただける場合は2020年1月9日までに、徳島文学協会事務局までメール、電話にてご連絡ください。

- 日時 2020年1月11日(土) 19時～
- 会場 たぎち
住所: 徳島市寺島本町東1-16
電話: 088-626-8001
- 会費 4,000円

ご入会や講座のお申込み・お問合せは徳島文学協会事務局まで

〒771-3201 徳島県名西郡神山町阿野字方子 103

TEL: 080-6284-0296 society@t-bungaku.com <https://www.t-bungaku.com/>